横浜市立 すすき野中学校　令和 元 年度版　中期学校経営方針　（ 令和 元 ～ 3 年度 ）

学校教育目標	学校教育目標:「自立と共生」 ○ 自他を思いやる心を育て、社会で共に生きる力を高めます。【徳・公】 ○ 健康な心と体を育て、主体的に学び、行動する力を高めます。【体・知】 ○ 思いを伝え合う力を高めます。【開】

学校概要					
創立 39 周年	学校長 高良 理	副校長 佐久間 万博	2 学期制	一般学級: 11	個別支援学級: 2
児童生徒数: 392 人	主な関係校: すすき野小、嶮山小、荏子田小、黒須田小、美しが丘西小				

教育課程全体で育成を目指す資質・能力
他者を思いやる心 意欲的に学び、行動する力 自分の思いを伝える力 課題を発見し解決する力 多様性を認め、協働する力 健康な心と身体を作り上げる力

あざみ野中・すすき野中 ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
すすき野中 あざみ野中 すすき野小 嶮山小 荏子田小 黒須田小 あざみ野第一小 あざみ野第二小	○自分らしく、共に生き、社会に貢献する子 小中学校間で学習指導や生活指導の円滑な接続を重視するとともに、児童・生徒間の交流や小中教職員の交流を積極的に図ることによって、子どもたちに必要な資質・能力を育てる。 特に、すすき野中、嶮山小学校、すすき野小学校とは三校合同の学校運営協議会等を通じて三校での連携を深め、また、荏子田小の「『まち』とともに歩む学校づくり懇話会」にてすすき野中と荏子田小学校の連携を深めることで、「9年間で育てる子ども像」に沿った育成を進める。

中期取組目標
＜誰もが安心して豊かに、生き生きと生活できる学校を目指して＞ ○生徒一人ひとりに寄り添った指導を行い、学校が生き生きと過ごせる場となるように、生徒・保護者・教職員間の信頼、協力に基づいた教育活動を展開する。 ○教職員間の連携を深め、校内研修・授業研修等を充実させることで、教職員の継続的な資質向上に努める。また、従来の慣習にとらわれず、必要に応じて教職員の働き方を見直し、より効率的な勤務体制と運営組織を作る。 ○すすき野中学校支援会を中心とした、地域・保護者による教育ボランティアの活用、すすき野ジュニアサポーターによる学校からの地域行事への積極参加等、地域との連携を図り、開かれた学校づくりを進め、生徒に地域の中の一員という自覚を育てる。 ○学校運営協議会による学校運営の改善を図るとともに、小学校及び地域と密接に連携し、9年間の滑らかな成長ができるように支援する。 ○教職員の働き方を見直すことで業務効率の継続的改善を図り、授業力の向上や生徒に向き合う時間を増やす工夫をする。

重点取組分野	担当	具体的取組
学びに向かう力	学習指導	①研究授業や授業見学を実施し、「生徒が興味をもって主体的・対話的に深く学ぶ」「学習活動を振り返って次へつなげる」という視点で協議会を行うことで、授業力の向上を図る。②生徒の実態に基づいた指導・支援を行う中で、ICT機器や学校司書を含めた学校図書館の効果的な活用、研究調査の充実を図る。
豊かな心	人権・道徳	道徳だけでなく、横断的な取組・実生活との関連を重視した取組の中で、自己を見つめ、更にそれを交流したり協働したりすることで、新しい考えに出会う喜びを感じ、多面的・多角的に考える態度を育てる。
健康な心身	保健・安全	①授業や様々な行事を通して、仲間と協力することの大切さや、運動の楽しさ、喜びを感じることができるようにする。②保健指導では授業だけでなく専門機関と連携することによって、安全や自らの健康について思考する力を養う。③避難訓練・防災訓練を通して、安全防災に対する意識を高め、非常時の即応できる行動を身に付ける。また、安全防災に対して生徒が主体的に活動できる取り組みを委員会などを通して考えていく。
生徒指導	生活指導	①長期休業明けの教育相談を年に3回行ったり、普段から生徒に寄り添い声かけをするなど、適切な支援を行う。②職員会議や21番会議、また生徒指導研修を行い、生徒ひとり一人の情報を共有して組織的な対応を行う。③特性のある生徒や不登校生徒への支援をカウンセラーや支援員と連携しながら特別支援教室の運営をしていく。
教育課程	教育課程	①新学習指導要領実施に伴い評価方法も変わるので、各職員が積極的に研修に参加し、本校の教育目標に沿った評価ができるようにする。②各教科のカリマネを作成するために、新学校教育目標をふまえ、本校の生徒の目指す姿を意識した内容を各教科で検討する。③H33完全実施に向けて、各教科における実施スケジュールを考え、研修を行うように計画する。
地域連携	地域交流	①生徒と地域保護者との連携を進めるためにも、地域行事を周知し年間計画をお知らせをして、計画的に参加生徒を募りジュニアサポーターとして参加する。②学校行事の中で、福祉体験や面接練習や学習教室の協力を仰ぐ。③高齢者をいたわる優しい気持ちを育むためにも、小中連携の一環で年賀状を送る取り組みをする。
環境整備	校務・保健安全	①生徒の意見や活動も取り入れ、学校施設の維持と改善の提案を行い、よりよい教育環境をつくる。 ②教職員に対し引き続き環境維持のための意識的活動を呼びかけ、相互チェックの体制の確立を図る。 ③定期的に安全点検を行い、事故の防止に努める。
特別支援	特別支援・コーディネーター	①配慮の必要な生徒については丁寧な支援を心がけ、多面的に環境を整えられるよう積極的にカウンセラーや専門機関と連携を図っていく。②様々な理由で学習に遅れがある生徒に対してSSR（特別支援教室）を活用し、誰もが主体的な学びを実感できるような学習支援を行う。
いじめへの対応	生活指導	①年3回いじめ防止研修を行い、全教職員のいじめに対する感度を高くするとともに、生徒指導部と連携した教育相談や生活アンケートにより細かな変化を見逃さない体制をつくる。②月1回以上いじめ防止対策委員会を開催し、認知された案件の経過確認をていねいに行うことで再発防止に努める。
人材育成・組織運営（働き方改革）	教務・コーディネーター	①メンターチームを作り、コーディネーターを中心に研修・情報交換を行う。②研修の計画を立て、行事との拘わりをとらえながら実施していく。③PDCAサイクルを意識して、学級運営や授業が展開しやすくなるように支援する。